

「緊急地震速報評価・改善検討会」(第10回)の議事概要

日時：平成30年1月10日(水) 15時00分～17時00分

場所：気象庁講堂(気象庁2階)

出席者

・委員

田中座長、小野(代理)、国崎、是澤、佐藤、高田(代理)、谷原、中森、半井、橋爪、福和、増満、村野、横田(五十音順、敬称略)

・行政委員

廣瀬、陰山(代理)、竹内、山本(代理)、佐藤、永井(建制順、敬称略)

・気象庁出席者

上垣内、佐々木、森、木村、松森、青木、東田

議事

- 気象庁から、資料1～3に基づき説明を行った。
- 委員からの主な意見は以下のとおり。

緊急地震速報の精度を評価する際には、±1階級程度という、緊急地震速報の本来の技術精度に見合った評価をしたほうがいい。

1月5日の事例について、震源から遠く離れたところの振幅が大きく、震源に近いところの振幅が小さいにもかかわらず、同一の地震であると判断した点、及び、時間的に同一の地震と判断した点から、現在の緊急地震速報の異常値を判定する機能が不十分であることは明確である。次の技術部会で検討する際に問題点を整理したほうがいい。

緊急地震速報で過大な予想をした際に、それをお知らせする情報を出すことはできないか。

緊急地震速報は技術的にかなり良くなったと思うが、一方で、苦手なものがあることははっきりしている。見逃しを避けるという前提に立ったときに、緊急地震速報は何が苦手なのかを整理することが必要ではないか。

国民の緊急地震速報に対する認知が確実に広がり深まっていることを前提に、緊急地震速報の特性を踏まえた訓練のあり方を普及させていく必要があるのではないか。

適切な安全行動は、個人の場合には変わらないと思うが、組織・団体の場合には異なるのではないか。組織・団体での利用を考えた場合の適切な安全行動について事例を収集して共有を図る必要があるのではないか。

南海トラフ地震について、緊急地震速報（警報）が発表されるタイミングとは別に、最終的な揺れの大きさのシミュレーションを見せて欲しい。

情報がどのくらい大切に役に立つかということ判断しやすくするため、警報の発信時間に加えて、震度5弱以上の揺れが観測される時間とその継続時間及び津波の到達予想時間の情報を一つの地図で見られるようにして欲しい。

気象庁が巨大な地震と判断した段階で、想定される震度に対しての緊急地震速報（警報）を発表するというのも一つの考え方だと思うので、緊急地震速報（警報）のあり方については、最大クラスの津波と震度を対象に議論したほうがいい。

南海トラフ地震の場合には、事前対策と津波警報、緊急地震速報のウェイトが高まってきていると思うので、トータルにどうやって守っていくのかをこの場でも議論していきたい。